

令和2年度学校評価報告書

学校名（廿日市小学校）

		評価計画									学校関係者	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	現状	目標	中間8月	最終2月	達成	評価	結果と課題の分析	評価コメント	改善方策
①基礎・基本の定着を図り、確かな学力をつける	◎児童一人一人が「分かった」「できた」と実感する授業づくりを行い、自分の考えを相手に分かるように表現する力を付ける【小・中共通】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着を図り、学習に困難を抱えた児童に対し、個に応じた手立てを行う</li> <li>・自分の考えをもたせる手立てを工夫する</li> <li>・表現の仕方について個に応じた手立てを行い、支援する</li> </ul>	授業が「分かった」「できた」「授業中、自分の考えを表現することができた」と回答した児童の割合<児童アンケート>	96	90	87	92	105	A	「授業が分かった」96%（よく67.5%） 「表現した」88%（よく47.5%） 「表現できていない」13%・前回の20%から7%減った。 ・UDの考え方を生かした授業づくりを行うことで、意欲を継続させることができた。 ・表現力育成モデルについて児童の実態に合わせた内容に変えるなど学年会の充実に取り組んできた。	どの目標も達成度が高く、先生方はよくやっている。順調に学校経営が行われていると感じる。特に学力については、学力調査において全国や市平均よりも正答率が高く、しっかりと学力をつけている。Bの項目をAにするよう頑張っており、取り組んで欲しい。	「表現力育成モデル」の内容を見直し、学年や実態に応じた、具体的な姿を明確にしていく。学年で共有する。
			標準学力調査の活用問題60%以上正答した児童の割合【市共通項目】	73	70	—	65	94	B	算数科の活用について、60%以上の正答率は全体では、65%で、目標値に達していない。 ドリルタイムの実施で基礎学力の定着を図ることができた。		今後は定着した基礎学力を活用する場の設定をしていく。
			標準学力調査（算数）で60%未満の児童の割合	15	12	—	9	103	A	目標値を達成することができた。4月の早い段階でスクリーニングテストやアセスメントタイムを実施し、児童の実態把握を行い、個別の支援方法を考えて取り組んできた。		引き続き、取組を進めていく。今年度、正答率が低かった問題を来年度の指導に生かしていく。
②積極的な生徒指導を行い、豊かな「心」を育む	人の気持ちを考え、行動できる児童を育成する	「甘小3つの自慢」の向上に向けて児童の主体的な活動を仕組む「挨拶」「聞き上手」「身だしなみ」	各自慢が「とても良くできている」と回答した児童の割合<児童アンケート>	63	65	挨拶64 間63 身69	挨拶64 間61 身70	98 94 107	B	児童主体の活動を行うことができた。「とても良く」の数値を見ると目標値に達していないものもあるが、肯定的評価は向上している。	挨拶は、マスクをしていて声は小さく感じるが、それでも徐々にできるようになっている。見守りで立って、去年に比べて挨拶ができるようになってきた子が数名いて成長を感じた。	1月に行った挨拶運動の成果が徐々に始めている。来年度も委員会を中心に甘小3つの自慢の向上や自己肯定感、自己有用感の育成に取り組んでいく。
			自己肯定感、自己有用感を育てる学級の取組を仕組む	—	80	80	85	106	A	学校行事が中止になり高学年児童の活躍の場が少なくなったが、委員会活動を工夫することにより、1学期78%→2学期85%と向上した。		
			時間いっぱい自分の持ち場を丁寧に掃除する取組を仕組む【小・中共通】	—	80	児93 教94	児94 教88	117 110	A	委員会が掃除の仕方を動画で示し、小中合同のポスターを掲示したこともあり、掃除の質が上がってきた。		今後はもくもく掃除を目指す。
③保護者・地域の信頼を高める	「笑顔で顔合わせ」と学校の双方の意欲が高まっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間を中心に児童が地域で活躍できる場をつくる</li> <li>・効果的な運営がなされるよう、調整会議で状況を把握する</li> <li>・地域行事に参加するように促す</li> </ul>	地域や家族の役に立ったと感じた児童の割合<児童アンケート>	—	60	85	87	145	A	10月クリーンアップ大会をまちづくり協議会と4年生が企画・運営し呼びかけたところ多数の児童が参加した。地域の清掃を児童・教員・保護者・地域が一緒に活動することで地域をよくしていこうという一体感が生まれた。	保護者・地域との連携において来年度は、少しずつイベントを復活させていきたい。学校とも連携を密にして盛り上げていきたい。	来年度も総合的な学習の時間を中心に、地域に貢献する児童を育成していく。

	働き方改革を推進し、子どもと向き合う時間を確保する	業務の見直しを行う	時間外勤務時間が月80時間を越える教職員の割合 時間外勤務時間が月平均45時間未満の教職員の割合<在校等時間記録>	2.5 53	0 55	0 69	0 66	100 124	A	月 80 時間を超える教職員の割合、月平均 45 時間未満の教職員の割合ともに目標値を上回った。時短用の週案ソフトの導入や学級事務確保の曜日設けるなどで児童に向き合う時間を確保するよう努力した。また、45 時間を超過しないように意識する教職員が増えた。		月平均 45 時間未満の教職員の割合をさらに増やすよう、業務の見直しや声掛けを進める。
--	---------------------------	-----------	--	-----------	---------	---------	---------	------------	---	--	--	---